

廊下の突き当たりにある洗面台横の窓から外を眺めている辰彦。

開いた窓から庭でB B Qをしている様子が見える。

雄一の声「どうした」

ハッと振り返ると雄一が立っている。

辰彦「ああ、2階のトイレ使ってみようかな、と」

雄一「そう」

外を眺める辰彦。

雄一「1階のトイレ、水流してるの聞いたよ？」

雄一、辰彦を見つめる。

辰彦「…」

雄一「なにしてたの」

辰彦「…2階のこの窓好きだったんですよ」

雄一「？」

辰彦「ここから見える庭が好きで。なんかいつもいる庭とちがう風に見えるなって、子供の頃ここに足乗つけて」

雄一「そう」

辰彦「キミちゃんがそこ（庭）の水道で足洗ったことがあって…
そればーつと見たのが記憶にずっと残ってるんですよ」

雄一「…」

辰彦「俺が3年生で、キミちゃん6年だったかな？」

雄一「今は？」

辰彦「？」

雄一「今はなにが見える？」

辰彦、そつと窓から庭を見る。

辰彦「中村さんの後ろ姿…ですかね」

雄一、クスツと小さく吹き出してしまう。

※辰彦：キミコのはとこを装った空き巣。雄一はそれには気付いていないが、得体の知れない違和感を感じ始めている。

※中村さん…近所の面倒くさそうなオッサン。